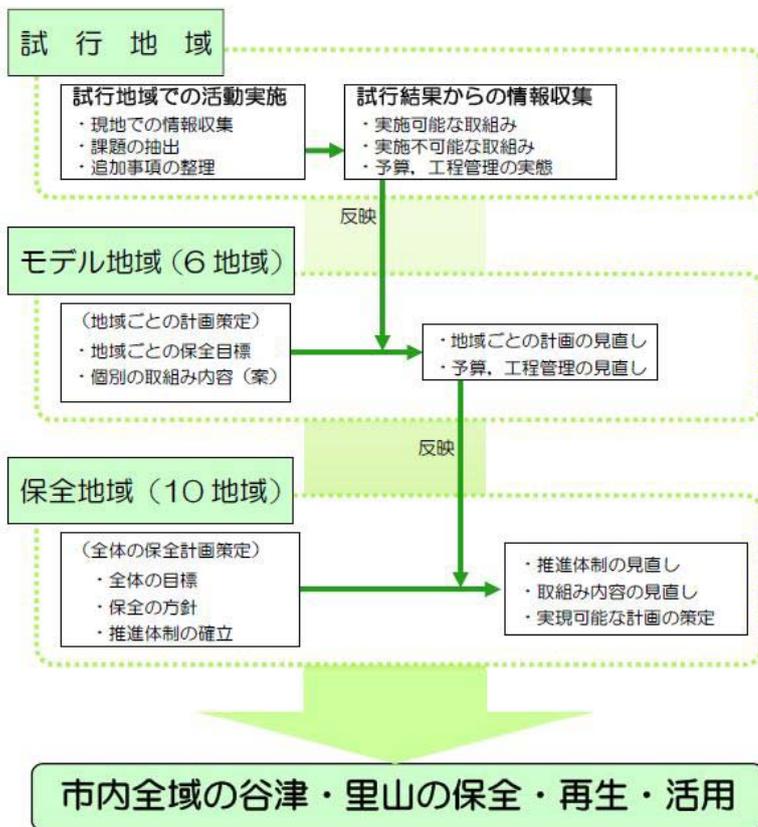


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	計画策定と実行プロセス／保護・保全（地域内循環型）
手法名	都市近郊における「谷津・里山保全計画」の策定と市民連携による活動展開
主体	ヤマトミクリの里づくり協議会・千葉県八千代市
背景(地域の課題)	大都市近郊にあつて住宅地化など開発が進む八千代市において、市内に点在する残された谷津・里山をどのように保全し再生していくか課題となっている。
手法／方策の詳細	<p>八千代市では平成23年3月「八千代市谷津・里山保全計画」を策定。島田・桑納地区に生息する「ヤマトミクリ」をシンボルとして、谷津・里山を保全・再生・活用するために、市民団体・事業者・八千代市が協議会を設立し活動を開始。</p> <p>地権者、島田・桑納地区住民、市民団体、専門家、大学、事業者、行政等との協働で、森・田・畑の整備、ヤマトミクリの保全、農産物の活用などの事業を実施している（図1・2）。</p> <p>市民参加の調査活動にも力を入れており、スキルアップの講座を行いながら、下記の取組を行ってきている。</p> <p>①谷津・里山現地調査(6谷津・里山)      期 間：平成20年度～平成25年度      調査する人：市民団体+市民+環境保全課      調査対象：動植物</p> <p>②島田谷津湧水調査      期 間：平成23年度～現在      調査する人：市民+専門家+環境保全課      調査対象：湧水(5地点定点調査)</p> <p>③谷津・里山生き物調査(緊急雇用促進事業)(市内の谷津・里山)      期 間：24年度・25年度      調査する人：専門家+雇用者+環境保全課      調査対象：動植物</p> <p>以上の取組を通じてヤマトミクリが生息する「ヤマトミクリの里」が、八千代市内の谷津・里山保全のモデル地域となり、他の地区に広がることを目指している。</p>
手法・技術的視点	都市近郊の里地里山においては、住宅地開発などによる里地里山の消失が懸念されている。本事例では様々な主体の連携・協働によって機運を高めながら、市民参加による調査活動を通じた保全・活用策を具体的に実践しており、着目される。

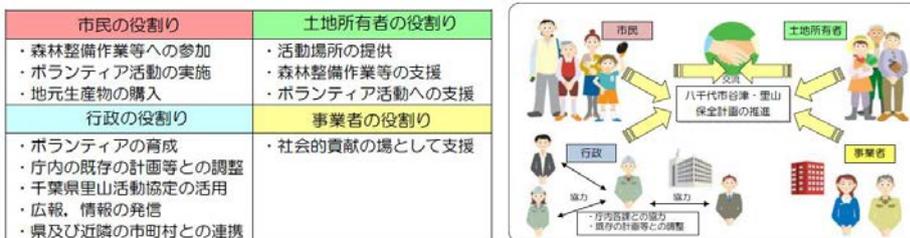
実行プロセス・運営体制のイメージ

保全計画の実行プロセス(八千代市谷津・里山保全計画概要版より)



図・写真資料

諸主体の役割分担と保全活用のイメージ(八千代市谷津・里山保全計画概要版より)



- ① 生物多様性の保全
  - ア. 適切な竹林整備, 下草刈りによる草本植物や樹木の生育の保護
  - イ. 生物モニタリングの実施
  - ウ. 水域(涵養林, 湧水)の保全や多自然型川作りの推進
  - エ. 希少種の保全
  - オ. 外来生物の防除
  - カ. ゴミの不法投棄対策
  - キ. エコ農業の推進



- ② 健康づくり
- ③ グリーンツーリズム等の推進
- ④ 環境学習の推進
- ⑤ 景観・文化の保全
- ⑥ 社会貢献の場としての活用
- ⑦ 地球温暖化, ヒートアイランド現象の防止

参考資料

平成25年度里なび研修会in千葉県八千代市パワーポイント資料「身近な環境調査から始める甲山の保全活動」(ヤマトキウリの甲づくり協議会) 八千代市公津・甲山保